

迷わず原木栽培を 継ごうと決めた（佐藤さん）

原木栽培ができるようになった
孫が頼もしい（蓑さん）

蓑 ナル子 さん
佐藤 康太 さん(24)
(国東町大恩寺)

佐藤康太さんが、しいたけ栽培に出会ったのは4年前。「祖父母がしいたけ栽培をしていたんですが、祖父が事故で亡くなってしまう。独りになった祖母を手伝いに行ったのが、始まりです」。原木栽培は、都会で育った佐藤さんに新鮮に映った。「山の風、音、空気が心地よくて、自然の中で働くことに魅力を感じましたね。迷わず、原木栽培を継ごうと決めました」

孫の康太さんについて聞いてみると、祖母の蓑ナル子さんのほおが緩んだ。「力仕事は任せて、私は駒打ちや採取を手伝っています。康ちゃんをよく働くし、いろいろな工夫もしていて頼もしいですよ。もう立派に原木栽培ができるようになりました」

康太さんが、すぐに言い返す。「僕の方こそ、祖母の知識に助けられてばかりです。採取のタイミングや選別の仕方を的確に教えてくれるので、順調に経験を積んでいくことができました。就農3年目となる今年は、5万個まで種駒を増やす予定です」

未来へ夢を膨らませる孫の横顔を目に、祖母は笑顔でうなずいた。

原木栽培の新規就農者数(市内)

平成30年	4戸
平成29年	2戸
平成28年	0戸
平成27年	2戸
平成26年	1戸

大分県東部振興局調べ

原木栽培を未来へつなぐ

乾しいたけの原木栽培は生産者の減少が続く一方、新規就農者は着実に増えている。市内には、佐藤さんのような若い就農者も珍しくない。既存農家の「知恵」と新規就農者の「感性」が混じり合えば、業界に新たな活力が生まれる。それは、課題を越えていく大きな力となるだろう。

原木栽培を取り巻く状況は厳しい。しかし、関係者は悲観していない。原木栽培を未来へつなぐ――。その強い思いで、みな

【問合先】 林業水産課 林業係 ☎0978-72-5198